

# 春寒

寺田寅彦

青空文庫



スカンジナビアの遠い昔の物語が、アイスランド人の口碑に残って伝えられたのを、十二世紀の終わりにスノルレ・スツール・ラソンという人が書きつづった記録が *Heimskringla* という書物になって現代に伝えられている。その一部が英訳されているのをおもしろそうだと思って買って来たまま、しばらく手を触れないで打っちやっしておいた。

ことしの春のまだ寒いころであった。毎日床の中に寝たきりで、同じような単調な日を繰り返しているうちに、ふと思いついてこの本を読んでみた。初めの半分はオラーフ・トリグヴェソンというノルウェーの王様の一代記で、後半はやはり同じ国の王であったが、後にセント・オラーフと呼ばれた英雄の物語である。

大概は勇ましくまた殺伐な戦闘や篡奪さんだつの顛末てんまつであるが、それがただの歴史とはちがって、中にいろいろな対話が簡潔な含蓄のある筆で写されていたり、繊細な心理が素朴そぼくな態度でうがたれていたりするのをおもしろいと思った。それから一つの特徴としては、王の軍中に随行して、時々の戦いくさの模様や王の事蹟じせきを即興的に歌った詩人 (Scalds) の歌がところどころにはさまれている事である。それがために物語はいつそう古雅な詩的な興趣を帯びている。

日本に武士道があるように、北欧の乱世にはやはりそれなりの武士道があった。名誉や信仰の前に生命を塵埃じんあいのように軽んじたのはどこでも同じであったと見える。女にも烈婦があつた。そしてどこもなくイブセンの描いたのに似たような強い女も出て来た。さすがにワルキリーの国だと思われたりした。

オラーフ・トリグヴェスソンが武運つたなく最後を遂げる船ふないくき戦の条は、なんとなく屋島やしまや壇だんの浦うらの戦いくさに似通つていた。王の御座船「長蛇ちようだ」のまわりには敵の小船いながいが蝗きようのごとく群がって、投げ槍やりや矢が飛びちがい、青い刃がひらめいた。盾たてに鳴る鋼はがねの音は叫きよう喊かんの声に和して、傷ついた人は底知れぬ海に落ちて行つた。……王の射手エーナル・タンバルスケルヴェはエリツク伯をねらつて矢を送ると、伯の頭上をかすめて舵柄だへいにぐざと立つ。伯はかたわらのフィンを呼んで「あの帆柱のそばの背の高いやつを射よ」と命ずる。フィンの射た矢は、まさに放たんとするエーナルの弓のただ中であたつて弓は両断する。オラーフが「すさまじい音をして折れ落ちたのは何か」と聞くと、エーナルが「王様、あなたの手からノルウェーが」と答えた。王が代わりに自分の弓を与えたのを引き絞つてみて「弱い弱い、大王の弓にはあまり弱い」と言つて弓を投げ捨て、剣と盾たてを取つて勇ましく戦つた。——私は那須与一なすのよいちや義経よしつねの弓の話の思い出したりした。

私がこの物語を読んでいた時に、離れた座敷で長女がピアノの練習をやっているのが聞こえていた。そのころ習い始めたメンデルスゾーンの「春の歌」の、左手でひく低音のほうを繰り返し繰り返しさらっていた。八分の一の低音の次に八分の一の休止があつてその次に急速に駆け上がる飾音のついた八分の一が来る。そこでペダルが終わつて八分の一の休止のあとにまた同じような律動が繰り返し返される。

この美しい音楽の波は、私が読んでいる千年前の船戦の幻像の背景のようになって絶え間なくつづいて行つた。音が上がつて行く時に私の感情は緊張して戦の波も高まつて行つた。音楽の波が下がつて行く時に戦もゆるむように思われた。投げ槍や斧をふる勇士が、皆音楽に拍子を合わせているように思われた。そして勇ましいこの戦の幻は一種の名状し難い、はかない、うら悲しい心持ちのかすみの奥に動いているのであつた。

今はこれまでというので、王と將軍のコールビオルンは舷から海におどり入る。エリツクの兵は急いで捕えようとしたが、王は用心深く盾を頭にかざして落ち入つたので捕える事ができなかつた。盾を背にしていた將軍は盾の上に落ちかかり、沈む事ができなかつたために虜となつた。

王はこの場で死んだと思われた。しかし泳ぎの達人であつた王は、盾の下で鎖帷子

を脱ぎ捨ててここを逃げのびてヴェンドランドの小船に助けられたといううわさも伝えられた。ともかくも王の姿が再びノルウェーに現われなかったのは事実である。

すぐれた英雄の戦没した後には、こういううわさの生まれたのはいつの世でも同じだと思われる。この戦を歌った当時の詩人の歌の最後の句にも「人はその願う事をやがて信ずる」と言っている。

ピアノの音はこの物語の終わりまでつづいて行った。読み終わった本を枕もとへ置いて、蒲団をかぶって聞いていると、音楽の波に誘われて物語の幻は幾度となく繰り返し繰り返し現われた。そしてこの王の運命の末路のはかなさがなんとなしに身にしみるようであった。

その後にもまたつづけて書物の後半になっているセント・オラーフの一代記を読んだ。

向こうところに敵なくして剣の力で信仰と権勢を植え付けて行った半生の歴史はそれほど私の頭に今残っていないが、全盛の頂上から一時に墜落してロシアに逃げ延び、再びわずかな烏合の衆を引き連れてノルウェーへ攻め込むあたりからがなんとなく心にしみている。そのころから王の周囲には一種の神秘的な影がつきまとい、不思議な幻を見たり、さまざまな奇蹟を現わしている。

スチクレスタードの野の戦の始まる前に、王は部下の将卒の団欒の中で、フィン・アルネソンのひぎを枕にしてうたた寝をする。敵軍が近寄るのでフィンが呼びさますと、「もう少し夢のつづきを見せてくれればよかったのに」と言ってその夢の話をして聞かせる。高い高い梯子が立つてその上に天の戸が開けていた、王がそれを登りつめて最後の段に達した時に起こされたのだと言う。フィンは、その夢が王の思うほどよい夢ではない、眠りの不足のせいではなければそれは王の身の上にかかる事だと言った。

王は黄金を飾った兜をきて、白地に金の十字をあらわした盾と投げ槍とを持ち、腰にはネーテと名づける剣を帯び、身には堅固な鎖帷子を着けていた。

美しい天気であったのが、戦が始まると空と太陽が赤くなって、戦の終わるころには夜のように暗くなつたと伝えられている。天文学者の計算によるとその日に日食はなかつたはずだという事である。

戦いは王に不利であった。……王はトーレ・フンドに切りつけたが、魔法の上着は切れなかつた。そしてトーレの着たとなかいの皮からぱつと塵が飛び散つた。王は將軍のピオルン（熊）に「鋼鉄のかみつけないこの犬（フンド）はお前が仕止めてくれ」と言つた。ピオルンは斧をふるつてその背を鎚にして敵の肩を打つとフンドはよろめいて倒れんとし

た。トールスタイン・クナーレスメドは斧で王を撃つて左のひざの上を切り込んだ。……王がよろめき倒れてかたわらの石によりかかり、神の助けを祈っているところへ敵将が来て首と腹を傷つけた。

戦いが終わってトーレ・フンドは王の死骸しがいを地上に延ばして上着を掛けた。そして顔の血潮をぬぐって見ると頬ほおは紅を帯びて世にも美しい顔ばせに見えた。王の血がフンドの指の間を伝い上って彼の傷へ届いたと思うと、傷は見るまに癒ゆ合ごうして包帯しなくてもよいくらいになった。……王の遺骸はそれから後もさまざまの奇蹟きせきを現わすのであった。

私がこのセント・オラーフの最期の顛てんまつ末まつを読んだ日に、偶然にも長女が前日と同じ曲の練習をしていた。そして同じ低音部だけを繰り返して行った。その音楽の布しいて行く地盤の上に、遠い昔の北国の曠ひろい野の戦いが進行して行った。同じようにはかないうら悲しい心持ちに、今度は何かしら神秘的な気分が加わっているのであった。

忠義なハルメソンとその子が王の柩ひつぎを船底に隠し、石ころをつめたにせの柩を上に飾つて、フィヨルドの波をこぎ下る光景がありあり目に浮かんだ、そうしてこの音楽の律動がかいいの拍子を取って行くように思われた。

その後にも長女は時々同じ曲の練習をしていた。右手のほうでひいているメロディだけ

を聞くとそれは前から耳慣れた「春の歌」であるが、どうかして左手ばかりの練習をしているのを幾間いくまか隔とこてた床とこの中で聞いていると、不思議に前の書中の幻影が頭の中によりがえつて来て 船ふないくさ 戦いくさ の光景や、セント・オラーフの奇蹟きせきが幾度もなく現われては消え、消えては現われた。そして音の高低や弛張しちようにつれて私の情緒も波のように動いて行つた。異国の遠い昔に対するあくがれの心持ちや、英雄の運命の末をはかなむような心持ちや、そう言ったようなものが、なんとなく春の怨うらみを訴えるような「無語歌」と一つにとけ合つて流れ漂つて行くのであつた。

そして今でもこの曲を聞くと、蒲団ふとんの外に出して書物をささえた私の指先に、しみじみしみ込むようであつた春寒をも思い出すのである。

(大正十年一月、渋谷)



# 青空文庫情報

底本：「寺田寅彦随筆集 第一巻」小宮豊隆編、岩波文庫、岩波書店

1947（昭和22）年2月5日第1刷発行

1963（昭和38）年10月16日第28刷改版発行

1997（平成9）年12月15日第81刷発行

入力：田辺浩昭

校正：かとうかおり

2003年5月27日作成

2010年8月24日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 春寒

寺田寅彦

2020年 7月17日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>